

平成19年度

事業報告書

財団法人 大阪国際児童文学館

<はじめに>

当法人は、設立以来、児童文学・児童文化に関する図書その他の資料の収集保存、活用及び調査研究並びに国際交流に係る各種事業を実施することにより、児童文学・児童文化振興に努めてきた。

平成18年3月に指定管理者の指定を受けて、平成18年度から5年間、大阪府立国際児童文学館の管理運営にあたることとなった。

平成19年度は、児童文学館の管理運営と児童文学等の資料の収集・整理・保存、講座・講演会等の開催、調査・研究事業などを継続的に実施した。また、初めての企画、「おはなしモノレール」として、貸切モノレールの車内で、おはなし会を開くなどの催しを実施した。さらに、子ども読書活動推進事業等を大阪府から受託し実施した。

その他、絵本を通して世界の文化の理解を深めるフォーラム「世界の絵本の現在」(主催：国際児童文学学会)を開催、国内外の研究者のネットワーク構築を進めるとともに、「タイと日本の絵本」をテーマにした論文集の発行や、「国際グリム賞」の授賞式及び記念講演会を開催して、児童文学・児童文化等の振興に努めた。また、より充実した使いやすいサイトをめざし、ホームページを全面的にリニューアルした。

経営目標を事業、財務、人事組織の各分野ごとに設け、その実現を図るとともに、児童文学資料の収集・整理・保存・活用機能を維持し、調査・研究については、より利用者ニーズに対応したものに重点化を図り、管理的経費の縮減や、利用者のニーズと意見の把握など経営改善に取り組んだ。

事業目標の分野においては、より利用者満足度の高いサービス提供に努めるため、各種事業におけるアンケート調査の事業への反映や児童文学等に関心を持つ人々や組織との協働による施設・事業運営を行うため、外部の専門家等との共同研究やボランティアとの協働を行った。

財務目標の分野においては、国等の助成資金の活用を図るなど事業費等の確保に努め、財務体質の改善を行った。

人事・組織の分野においては、人事評価を実施したほか、職員研修を計画的に実施するなど人材育成に努めた。

○役員会等の開催状況

1. 理事会

開催年月日	議事内容
19. 4. 20	評議員の選出について
19. 6. 2	(1) 常務理事の選任について (2) 評議員の選出について
19. 6. 29	(1) 平成18年度事業報告について (2) 平成18年度収支決算について (3) 平成19年度収支予算の補正について (4) 評議員の選出について
19. 7. 10	評議員の選出について
20. 3. 28	(1) 平成19年度収支予算の補正について (2) 平成20年度事業計画について (3) 平成20年度収支予算について (4) 書庫問題検討WG報告について

2. 評議員会

開催年月日	議事内容
19. 5. 9	役員の選任について
19. 6. 8	(1) 平成18年度事業報告について (2) 平成18年度収支決算について (3) 役員の選任について
19. 8. 6	役員の選任について
20. 2. 22	(1) 平成19年度収支予算の補正について (2) 平成20年度事業計画について (3) 平成20年度収支予算について (4) 書庫問題検討WG報告について

3. 運営協議会

法人運営の基本的事項について協議を行った。

第1回 平成19年6月 5日

第2回 平成19年11月9日

第3回 平成20年2月12日

○事業実施の概要

I 施設の維持管理及び利用促進事業

講堂、セミナー室、特別閲覧室等施設の良い維持管理を行うとともに児童文学等の催し等のために講堂、セミナー室、特別閲覧室を一般の利用に供した。

講 堂	セミナー室	特別閲覧室	計	府費徴収納付額合計
24件	32件	44件	100件	367,160円

II 児童文学等に関する図書、記録その他の資料を収集し、利用に供する業務

1. 資料の収集

資料収集は、①から③に関し、現在出版されている児童書及び研究書を収集するとともに、関連資料についても幅広く収集するように努めた。また、古書について、ホームページ等で提供を働きかけるなど寄贈依頼を積極的に行うことにより、過去発行されて所蔵リストにない学術的に貴重な資料についても収集に努めた。なお、収集について、マンガ本については、子どもの読者を対象としたものに限定するなど収集の精査を行い、外国語資料については、開架用の理論書、絵本等に重点を置いて収集を行った。

- ① 日本及び外国の児童図書
- ② 児童文学・児童文化に関する研究書
- ③ 整理業務及び閲覧に必要な参考資料
(上記についての雑誌、新聞等の逐次刊行物含む。)

(購入資料)

(単位：点)

区 分		前年度までの累計	19年度購入実績	合 計
図 書	和 書	147,264	5,219	152,483
	洋 書	20,768	213	20,981
	合 計	168,032	5,432	173,464
雑 誌		58,908	1,696	60,604
そ の 他		2,028	49	2,077
合 計		228,968	7,177	236,145

(寄贈資料)

(単位：点)

区 分	前年度までの累計	19年度寄贈実績	合 計
図 書	195,094	4,770	199,864
雑 誌	202,522	4,759	207,281
そ の 他	122,767	982	123,749
合 計	520,383	10,511	530,894

2. 資料の整理

購入・寄贈資料について、整理方針に基づき整理を行った。また、書架効率の高い配架と請求記号により閲覧利用の便宜を図るほか、迅速かつ効率的な資料整備を実施し、来館者やインターネット利用者への的確な資料情報提供に努めた。

(資料の整理状況)

(単位：点)

区 分	前年度までの累計	19年度整理実績	合 計
図 書	363,126	10,202	373,328
雑 誌	261,430	6,455	267,885
そ の 他	124,795	1,031	125,826
合 計	749,351	17,688	767,039

※貸出用資料の破損、複本の活用等による平成19年度までの払出数
61,630点 (現在数 705,409点)

3. 資料の保存

明治期以降の児童図書、少年少女雑誌、同人雑誌、絵本原画、紙芝居等をはじめとする多種多様な所蔵資料の保存環境を整え、利用の便宜を図った。

4. 資料の活用

インターネットを活用し、ホームページにより当館の案内情報を提供するとともに、蔵書の検索、関連機関へのリンク機能などを活用し、広く資料活用の促進を図った。

5. こども室、閲覧室におけるサービスの充実

利用者サービスの拡充に努めた。こども室では多様な読書サービスを提供するとともに、登録者の図書・雑誌の館外貸し出しを行った。

6. 「レファレンス」サービス

来館利用者及び電話や電子メールなどによる児童文学等に関する文献資料及び情報の紹介・提供依頼に応じるほか、公立図書館・学校などの機関からの照会・相談に応じた。

中国語圏セット（112冊。①台湾絵本セット85冊：台湾のことがわかる絵本、民族性、昔話、子どもたちの暮らし・遊び・ゆめ、わらべ歌～現代の詩、空想世界に遊ぶ絵本の6つのカテゴリに分けて紹介。②中国絵本セット27冊：昔話、子どもたちの暮らし、動物や虫がでてくる絵本の3つのカテゴリに分けて紹介。単独でも①②をセットにしても貸出可能。）

9. 資料複写利用者サービス事業

来館利用者及び当館ホームページ上からの複写申込などにより、利用者の要望に応じ、カラー複写を含む資料の複写サービスを行った。

マイクロフィルム電子印画 及び電子式複写印画 48,006枚

III 児童文学等に関する講座・講演会等の開催業務

1. 講座・講演会の開催

(1) 児童文学講演会

- ①日程 平成19年6月3日（日）
場所 当館講堂
題名 第1部「こどものとものあゆみ PART II
ーもっとひろがる絵本の世界」
講師 松居 直氏（福音館書店相談役、当財団理事長）
第2部「アフリカンコンサート」
演奏家 ジョゼフ・ンコシ氏（バラフォン演奏家）
河辺 知美氏（太鼓演奏家）
参加者数 135名
共催 大阪国際児童文学館を育てる会
- ②日程 平成19年9月15日（土）
場所 当館講堂
題名 「丸山昭さんと読む『講談社の絵本』の子ども漫画」
講師 丸山 昭氏（元講談社編集者・元講談社社友会会長）
宮本 大人氏（北九州市立大学准教授・元当館特別研究員）
参加者数 42名
- ③日程 平成19年10月13日（土）
場所 当館セミナー室

題名 「講座 絵本編集者に絵本作りを聞く『私のつくった絵本』
(子どもゆめ基金助成事業)

講師 宮崎 励氏 (学習研究社 幼児ソフト開発部 幼児図書編集室)

参加者数 25名

(1) 国際講演会

- ①日程 平成19年7月9日(月)
- 場所 当館セミナー室
- 題名 「多文化社会における児童書・児童サービス」
- 講師 パトリシア・オルダナ氏 (IBBY会長・カナダの編集者)
- 通訳 石川 晴子氏 (関西大学講師・児童文学研究者)
- 参加者数 28名
- 共催 社団法人日本国際児童図書評議会 (JBBY)
- ②日程 平成19年8月28日(火)
- 場所 当館講堂
- 題名 国際絵本フォーラム「世界の絵本の現在」
- 講師 イギリス、インドネシア、カナダ、韓国、スウェーデン、スペイン、台湾、デンマーク、フィンランド、ベルギーの児童文学研究者
- 参加者数 169名
- 主催 国際児童文学学会 (IRSCLE) 2007日本大会実行委員会
- ③日程 平成19年11月18日(日)
- 場所 当館講堂
- 題名 第11回国際グリム賞授賞式・記念講演会
「グローバルに児童文学を語ろう！ー世界的視野(グローバル)と地域性(ローカル)」
- 講師 受賞者 ジョン・スティーブンス博士 (豪・マコーリー大学教授)
- 通訳 多田 昌美氏 (美作大学准教授)
- 参加者数 68名
- 主催 財団法人金蘭会、大阪府立大手前高等学校同窓会金蘭会
- 後援 財団法人大阪府男女共同参画推進財団、日本イギリス児童文学会、大阪日豪協会、関西日豪協会、南大阪日本・オーストラリア協会

(2) 「本の講座」の開催

「2006年に出版された子どもの本」を紹介、解説する。

日程	平成19年4月27日(金)、4月28日(土)、4月29日(日・祝)
場所	当館講堂
題名	紹介と解説 「2006年に出版された子どもの本」
講師	西村 寿雄氏(科学読物研究会) 他当館職員
対象	教員、司書、読書推進関係団体、府民等
参加者	4月27日 49名 / 4月28日 93名 / 4月29日 105名

2. 事業へのボランティアの参加と協働による事業の充実

(1) ボランティア研修講座の開催

当館おはなし会等への参加実践、こども室行事等についての意見聴取などボランティアとの協働とボランティアを通じた地域の読書支援のために、ボランティア研修講座を開催した。

a スキルアップ講座「こどもと絵本をよむ」		
講師 当館職員ほか		
平成19年6月12日～11月6日(全4回)	当館	参加 延べ48名
b 伝承講演会(日本学術振興会・プロジェクト研究事業との共催) ※一般府民にも公開		
講師 齋藤 君子氏(口承文芸研究家)・長崎 広子氏(大阪大学) 山森 靖人氏(関西外国語大学)		
平成19年7月5日～11月27日(全3回)	当館	参加 延べ94名
c おはなし会研修		
講師 当館職員ほか		
平成19年4月3日～11月27日(全5回)	当館	参加 延べ45名

(2) ボランティア自主研修への支援

ボランティア登録者がグループを作って自主研修を平成19年4月17日(火)～平成19年3月18日(火)までの全5回当館において実施した。職員がアドバイザーとしてそれぞれのボランティアの地域活動に関わる資料支援や助言を行った。

(3) ボランティアの事業への参画

当館のボランティア研修講座及び人形劇講座修了者を中心に希望者を募り、主催事業等への参画を促進した。

- ① 子ども読書の日記念「おはなしのバスケット」等への参加

- ② 「おはなしモノレール」への参加
- ③ こども室行事（夢の池劇場・おはなし会等）への参加
- ④ 団体利用プログラム（おはなし会形式のプログラム）への参加
- ⑤ 「2006年に出版された子どもの本」の紹介、解説への参加
- ⑥ 当館事業のチラシの配付を支援・協力

3. 団体利用プログラム等

保育所・幼稚園、小・中学校、高校、養護教育諸学校の団体の来館者を対象に、園児・児童・生徒が楽しく読書をするきっかけづくりや物語の世界にふれ、本への興味や関心を持つためのプログラムの充実を図り、実施することにより施設の利用促進に努めた。府内の保育所・幼稚園、小学校・中学校、高校、養護教育諸学校に網羅的にチラシを配布し、府における市町村学校教育担当者会議等においても積極的に広報を行った。

さらに近隣地域を中心に子育てサークルや地域の子ども会等子どもに関わる活動団体・グループ等にもPRし利用の拡大を図った。

内容：主題別、対象別にプログラムを作成し、実施。

○プログラム利用（平成19年4月～20年3月）

保育園（所）・幼稚園	：	10団体	636名
小学生 低学年	：	11団体	899名
小学生 高学年	：	5団体	450名
中学生	：	2団体	24名
その他の団体	：	2団体	149名
		計31団体	2,158名

○こども室自由読書（平成19年4月～20年3月）

17団体 627名

4. 見学

希望者に書庫をはじめ館内を案内し、説明する「ガイドツアー」を実施した。

44件 431名

5. 「夢の池劇場」の開催（「子どもゆめ基金」助成事業）

世界のおはなし、アニメーション、人形劇など、親と子どもが楽しめる行事を行った。

①「夢の池劇場2007」		
a 「バオバブの木の下でー西アフリカおはなし村からー」＋書庫見学ツアー		
語　　り 江口　一久氏（国立民族学博物館名誉教授）		
太鼓演奏 河辺　知美氏（太鼓演奏家）、ジョセフ・ンコシ氏（バラフォン演奏家）		
平成19年5月3日（木・祝）午後	当　　館	参加　子ども38名　大人67名 書庫見学　13名
b 「世界のアニメーション」＋書庫見学ツアー		
協力　ヤマハ・ミュージック・メディア　アット・アームズ		
平成19年5月4日（金・祝）午後	当　　館	参加　子ども37名　大人43名 書庫見学　12名
c　ワークショップ「火よう日のごちそうはひきがえる」（「子どもゆめ基金」助成事業）		
講師　土居　安子（当館主任専門員）		
平成19年5月5日（土・祝）午後	当　　館	参加　子ども26名
d　人形劇　「火よう日のごちそうはひきがえる」（「子どもゆめ基金」助成事業）		
上演　人形劇団京芸		
平成19年5月5日（土・祝）午後	当　　館	参加　子ども69名　大人54名

6. こども室行事

子どもが本に親しみ、関心を持つための様々な試みを行い、得られた成果を子ども読書に関わる機関や団体に提示していく。具体的には、子どもと保護者がくつろぎながら、好きなときに好きなだけ本と過ごせるような場を提供するとともに、本との出会いの場としてのおはなしコーナーでの「おはなし会」の開催、物語体験、科学あそび等を行い、ボランティアとともに、読書を楽しむ環境づくりを推進した。

a　3・4・5歳のおはなし会「はるのはなし」ほか		
出　演　当館ボランティア、当館職員		
平成19年4月7日～平成20年3月8日（11回）	当　　館	参加　子ども107名　大人98名
b　おはなし会「春のはなし」ほか		
出　演　当館ボランティア、当館職員		
平成19年4月8日～平成20年3月2日（19回）	当　　館	参加　子ども341名　大人258名
c　おはなしクイズにちょうせん		
出　演　当館ボランティア、当館職員		
平成19年4月14日（土）午後	CUBE3110 彩都	参加　子ども85名
平成19年10月8日（月・祝）午後	インフォ*ミュージアム	子ども125名

d おはなしのバスケット (子ども読書の日記念)		
出 演 ジミンゴア氏 (梅花女子大学大学院)、当館ボランティア		
平成19年4月15日 (日) 午後	当 館	参加 子ども12名 大人17名
e ワークショップーおはなしであそぼうー		
講 師 当館職員		
平成19年5月27日～ 平成20年1月27日 (5回)	当 館	参加 子ども37名 大人25名
f 科学あそび「つくろう!たのしもう!アニメーション」		
講 師 小谷 佳津志 (近畿アニメーション協議会)		
平成19年7月22日 (日) 午後	当 館	参加 子ども29名 大人26名
g 物語体験クラブ「おはなしであそぼう」		
講 師 当館職員		
平成19年7月23日 (月) 24日 (火) 26日 (木) (3回)	当 館	参加 子ども17名
h 大型ビデオ上映会「ふじぎなおはなし」		
協 力 ヤマハミュージックメディア アット・アームズ		
平成19年8月26日 (日) 午後	当 館	参加子ども24名 大人18名
i ドイツのアニメーションと絵本作家ワークショップ		
講 師 マルチナ・グロッサ氏 (人形劇アニメーション作家)、 ザビーネ・ショルツェ氏 (アニメーション映画ドイツ研究所)		
平成19年10月6日 (土) 午後	当 館	参加 子ども53名 大人47名
j 万博コスモスフェスタ2007「ことばあそび大会」		
プログラム進行 当館職員、当館ボランティア		
平成19年10月28日 (日) 午後	万博記念公園 自然文化園花の丘	参加 108名
k よみがえる街頭紙芝居ー上演と展示ー		
出 演 三邑会紙芝居師、当館職員		
平成19年11月4日 (日) 午後	当 館	参加 子ども27名 大人37名
l ワークショップ「へんてこ森へいこう」(文部科学省助成事業)		
講 師 上谷指導員 (自然観察学習館)		
平成19年11月23日 (金・祝) 午後	自然観察学習館	参加 子ども16名 大人見学14名

m 「冬の詩をたのしもう」		
講 師 当館職員		
平成19年12月2日(日)午後	当 館	参加 子ども9名
n お楽しみ会「世界のおはなし」		
出 演 当館ボランティア人形劇グループ「ばれっと」、当館職員		
平成19年12月16日(日)午後	当 館	参加 子ども75名 大人58名
o カルタとり大会 「大型絵本カルタの作成とカルタとり」		
指 導 当館職員		
平成20年1月6日(日)午後	当 館	参加 子ども42名 大人見学40名
p おはなしモノレール (協賛：大阪高速鉄道株式会社、日本万博国博覧会記念機構、阪急電鉄株式会社)		
出 演 当館ボランティア人形劇グループ「ばれっと」、当館ボランティア、当館職員		
平成20年3月15日(土)	大阪モノレール、 CUBE3110 彩都 インフォ*ミュージアム	参加 子ども44名 大人42名 (応募:934名)
q 万博公園ふれあいの日協賛「おはなしクイズに挑戦」		
指 導 当館職員		
平成20年3月16日(日)午後	当 館	参加 子ども159名
r 児童文学作家 神沢利子さんの物語世界を楽しもう(「子どもゆめ基金」助成事業)		
講 師 神沢 利子氏 (児童文学作家)		
平成20年3月28日(金)午後	当 館	参加 子ども38名 (子ども見学5名 大人見学47名)

7. 所蔵資料の展示

常設展示コーナーに当館所蔵の絵本・児童書・原画等を計画的に展示した。また、当館職員が展示内容についての解説を加えたリストを作成し、来館者に配布した。

- ①「台湾絵本の、今－中国語圏の絵本－」展 (平成19年4月1日～4月29日)
- ②「茂田井武 没後50年」展 (平成19年5月3日～7月30日)
- ③「再発見! 「講談社の絵本」の漫画世界」展
(平成19年8月2日～平成19年10月29日)
- ④「大阪発! 子どもの文化①子どもたちはこんな本にかこまれていた－展」
(平成19年11月1日～平成20年2月12日)

⑤「第24回 ニッサン童話と絵本のグランプリ入賞作品展」

(平成20年3月1日～平成20年3月30日)

また、公立図書館等に貸出するため、当館で行った展示に使用した所蔵資料、解説資料などをパックした展示パック「フランダースの犬」「マザーグース」の利用を呼びかけた。

8. 創作童話・絵本の募集コンクール（協賛：日産自動車株式会社）

創作童話・絵本の募集コンクール「第24回ニッサン童話と絵本のグランプリ」を実施した。

募集期間 平成19年7月～10月

表彰式 平成20年3月8日（土）（日産横浜倶楽部）

応募数 3,062篇（童話 2,366篇・絵本 696篇）

後援 文部科学省

大阪府教育委員会

社団法人日本国際児童図書評議会

日本児童文学学会

社団法人日本児童文学者協会

IV 児童文学等に関する調査及び研究業務

1. 共同研究の実施

当館の職員と子どもの本に関わる分野の専門家が学際的に協働し、研究を行った。研究成果については、当館のホームページに登載して広く活用を図った。

○「子どもが利用できる汎用性のある図書検索システム」の研究・開発

当館におけるインターネットによる子ども向けの図書検索システム（「本の海大冒険」「ほんナビきっず」）の活用状況も調査しながら、子どもにとってより使いやすい、効果的なシステムの研究開発を引き続き行った。今年度は、子どもがより楽しんで本が探せるよう、コンテンツの追加作成を行うとともに、ゲーム的要素を盛り込んだシステムの開発を行い、「ほんナビきっず」に搭載した。

当館におけるインターネットによる子ども向けの図書検索システム「ほんナビきっず」を活用した実践事業を行い、活用の現状を把握するとともに、今後の研究に役立てるよう努めた。

「ほんナビきっず」を使って本と出会おう

日程： 平成 20 年 3 月 13 日(木)
場所： 箕面市立中小学校
対象： 小学 3 年生 3 クラス(児童数 107 人)
教科： 図書の時間

○「おはなしボランティア支援 読書活動実践データベース」の研究・開発（子どもゆめ基金教材開発普及助成事業）

地域の子どもの読書活動推進のために必要不可欠であるおはなしボランティアは、具体的に他のグループがどのようなプログラムで、いかなる活動を行っているのか情報交換する場が少なく、手探りで実践を行っている現状がある。こうしたボランティアのニーズに応え、その取組の質を高め、子どもの読書活動をより活性化するため、情報を共有する実践データベースの研究・開発を行った。

おはなし会のプログラム事例を初期投入分として 500 事例投入し、「本の海大冒険」とシステム連携を行うことで、おはなし会で本を探すための書誌検索機能をより充実化させた。また、子ども向けに作家からのビデオメッセージ（神沢利子ほか 4 名）を作成、「本の海大冒険」に搭載した。

○「タイの子どもの本・絵本」の研究

近年著しい発展をみているタイの絵本について、その現状や課題の把握、我が国の絵本の状況との比較などの調査・研究を行うとともに、論文集の刊行を行った。また、その成果は図書館等に配布するとともに、子ども向けに使いやすくした絵本セットの貸し出しを行えるようにした

V 諸外国との児童文学等に関する資料及び情報交換業務

1. フォーラム「世界の絵本の現在」開催。（日本児童文学学会、日本イギリス児童学会等共催）（日本万国博覧会記念基金助成事業）

国際児童文学学会研究大会（平成 19 年 8 月 25 日（土）～8 月 29 日（水）。

主会場 国立京都国際会館、参加者 国内 263 人、国外 127 人）の期間中に、同大会のために来日した児童文学研究者を講師に迎えてフォーラム「世界の絵本の現在」（会場：当館）を開催した。

アジア、オセアニア、ヨーロッパ、アメリカなど多数の国々からの参加者があり、世界の研究者との交流の場になるとともに、相互に情報交換を行い、日本の児童文学・児童文化および当館の情報発信に努めた。

日 程 平成 19 年 8 月 28 日（火）14 時～17 時
開催場所 当館講堂

発表者 11カ国・地域11名（オーストラリア、ベルギー、カナダ、デンマーク、フィンランド、インドネシア、韓国、スペイン、スウェーデン、台湾、英国）

対象 学会参加者および絵本及び国際交流に関心のある府民

参加者数 169名

フォーラム終了後、海外の参加者に向けて当館資料を使った日本の児童文学史のミニレクチャー、及び当館見学会を行った。

また、会場にはタイをはじめとするアジアの国々の絵本や、フォーラム参加国の翻訳絵本および原書絵本を展示した。

2. 国際交流事業「タイと日本の絵本」

平成15年度まで実施してきた「外国人客員研究員招聘事業」の成果を継承しつつ、幅広い人たちに興味や関心を持ってもらうことのできる「絵本」をテーマに、アジア地域における児童文学先進国を重点的にとりあげる新しい事業を平成17年度から開始した。韓国、中国語圏（その1、台湾）に引き続き、「タイの絵本」をテーマとした事業を外部研究者らと交えたプロジェクトチーム（三宅興子氏、竹内より子氏、及び当館職員）を構築、座談会を行うなど絵本を通してタイと日本の文化の相互理解を深めた。国内外の研究者のネットワーク構築に寄与し、児童文学及び児童文学研究の促進を図った。

(1) 絵本フォーラムの記録及びタイの絵本についての研究論文集の発行

「絵本」や「タイ」に対する理解を深め、同分野の研究促進を図るため、座談会の記録に加えて、「タイの絵本」というテーマで複数の論文を一冊の論文集にまとめた。また、論文集には、フォーラム「世界の絵本の現在」の記録、および国際グリム賞受賞者のジョン・スティーヴンス博士の論文「絵本、ミメシス、そして動くキネシス>静<スタシス>という拮抗する二つの美学」という絵本に関する論文を掲載した。論文集は府域図書館・国内外研究機関等へ配布を行った。

(2) 貸出用絵本セット(タイの絵本)の作成

「タイの絵本セット」を作成し、平成20年5月より希望する学校、公共図書館、ボランティア団体等への貸し出しを行えるようにした。

(3) おはなし会等の開催

子どもを対象に、タイの絵本を題材にした「おはなし会」などの催しを開催した。

＜賛助企業：大阪ガス㈱、関西電力㈱、近畿日本鉄道㈱、サントリー㈱、
武田薬品工業㈱、㈱竹中工務店、東洋紡績㈱、阪急電鉄㈱、
㈱富士通東北システムズ、松下電器産業㈱、ムサシ・アイ・テクノ㈱＞

3. 「キワニス文庫」(大阪キワニスクラブからの寄贈により設置)の充実

大阪キワニスクラブからの寄贈をうけ、これまで招聘した外国人客員研究員などの協力を得てオーストラリア、ニュージーランドなど環太平洋地域をはじめ世界各国の優れた子どもの本の充実を図るとともに、こども室と閲覧室にコーナーを設け、解説等を加えて、多くの子ども達が各国の子どもの本とのふれあいを通じて、本に興味をもち親しむ機会づくりを進めた。

4. 資料、情報交換

当館の活動及び日本の児童文学の状況について紹介した「IICLO REPORT」(英文レポート)を電子メール等で、海外の児童文学専門機関等に提供するとともに、ホームページで情報を提供した。また、海外の関係機関と資料、情報の交換を行った。

対象機関

国際青少年図書館(ドイツ)、
浙江師範大学(中国)、
世界華文児童文学資料館(台湾)、
スウェーデン児童文学研究所(スウェーデン)、
ジェノバ市立国際児童図書館(イタリア)、
児童文学研究所(フィンランド)、
ライデン大学(オランダ)、
国際シャルル・ペロー研究所(フランス)、
アメリカ議会図書館(アメリカ)、
セブンストーリーズ(イギリス) 等

5. 国際児童文学研究賞事業(財団法人金蘭会共催)

世界の児童文学研究に貢献する人々の業績を顕彰し、国際的な児童文学研究の振興に寄与するため、第11回「国際グリム賞」の授賞式と受賞者の講演会を行った。

名称	「国際グリム賞」
授賞式	11月18日(日) 13時～15時30分 当館講堂
講演会	「グローバルに児童文学を語ろう！ ——世界的視野(グローバル)と地域性(ローカル)——」
受賞者	ジョン・スティーヴンス氏(オーストラリア)

参加者数 68名

主催：財団法人大阪国際児童文学館

財団法人金蘭会

大阪府立大手前高等学校同窓会金蘭会

後援：財団法人大阪府男女共同参画推進財団 日本イギリス児童文学会

大阪日豪協会 関西日豪協会 南大阪 日本・オーストラリア協会

6. 他団体による国際交流イベントとの共催・参加

(1) 「おはなしおはなし モンゴルの絵本～遊びを通して異文化ワールドへのいざない」

国際交流イベントにおいて、モンゴルの絵本を中心にアジアの絵本のおはなし会とアジアの国々の絵本展示を行った。おはなし会では、当館職員と留学生がおはなしや絵本を紹介した。

日程 平成19年6月17日(日) 10時～12時

開催場所 当館講堂

出演者 ジミンゴア(モンゴル留学生)・当館職員他

参加者数 70名

主催 吹田市国際交流協会 吹田市草の根国際交流の会

後援 財団法人大阪国際児童文学館

おはなし会終了後には、当館の見学会を行い、オーストラリア、韓国などからの出演者による、歌や踊り、民族衣装の試着などが行われた。

(2) IBBYオナーリスト2006「内覧会」

IBBY(国際児童図書評議会)が推薦する世界の児童書の展示を行った。

日程 平成19年11月4日(日)・5日(月) 13時～16時

開催場所 当館会議室

主催 日本国際児童図書評議会(JBBY)

共催 財団法人大阪国際児童文学館

VI これらのほかに目的を達成するために必要な業務

1. 情報発信・広報事業

(1) ホームページの内容の充実

よりわかりやすく、充実したホームページとなるよう、サイトを全面的にリニューアルした。「資料の検索」へのダイレクトメニュー、利用案内、事業案内、事業報告、複写依頼、貸出予約、メールニュース等、内容の充実に努めた。

その他、次のことを行った。

- ①資料の検索サービスの充実、管理・運営
 - ②「本の海大冒険」等、デジタルコンテンツの管理・運営
 - ③当館の事業、研究成果などの紹介
 - ④国内の児童文学・児童文化関連事業の収集・発信
- 「アクセス数」 99,030件

(2) 対外的なシステム（組織）との連携

①「大阪府内図書館横断システム」の活用

府内の主要な大学（園）や公立図書館が参加するシステムのデータベースを活用し利用者への情報提供に努めた。

②児童書電子総合目録の活用

当館のほか、国際子ども図書館など国内の主要な児童書保有機関が運営する「児童書電子総合目録」を活用し利用者への情報提供に努めた。

③WEBCAT「全国大学図書館横断検索システム」の活用

約1千館の大学図書館及び都道府県立図書館が参画する国内最大の学術データベースの活用を検討した。利用者への情報提供を計画的に行うため、主宰する国立情報学研究所が行う遡及入力支援事業の公募に申請した。

(3) 報道機関等への積極的な情報提供

①報道機関等へ催し等について積極的に情報提供を行うほか、広報媒体への資料提供を積極的に行った。従来からの広報媒体や新聞各紙、各団体HPによる紹介に加え、地域FM局への定期的な番組出演なども行い、地元へのアピールに注力化するとともに、国内外への雑誌等への情報提供にも務めた。

宛先

ア「万博公園だより」	(独) 日本万国博覧会記念機構
イ「大阪モノレール沿線案内(車内ポスター)」 及び「モノレールプレス」	大阪高速鉄道(株)
ウ「えるプラザー」、「えるこみ」	サンケイリビング新聞社
エ「大阪観光イベント情報」	(財) 大阪観光コンベンション協会
オ「市報すいた」「もよおしいろいろ」	吹田市
カ 大阪府WEB情報局、府教委ニュース	大阪府
キ 在阪テレビ局、在阪新聞社	
ク FM千里	豊中市
ケ 雑誌「+DESIGNING」	毎日コミュニケーションズ

- ② 府域のボランティアグループ（※）に対して、大阪府子ども読書活動推進連絡協議会で行う講演会等の情報提供を行った。

※協議会の読書活動に関わる調査時に情報提供を希望したグループ（メールアドレスを持っている代表者82名）

- (4) 外部の事業への参加等による情報発信、広報
他団体主催の事業に積極的に参加し、館事業の情報提供に努めた。

- ①長新太展への「ほんナビきっず」出展

「ほんナビきっず」広報のため、次のイベントにシステムを出展した。

イ 会期：2007年8月15日（水）～8月27日（月）

会場：大丸ミュージアム京都（京都市）

主催：大丸ミュージアム、朝日新聞社ほか

来場者：非公表

ロ 会期 2007年9月8日（土）～10月8日（月・祝）

会場：そごう美術館（横浜市）

主催：そごう美術館、朝日新聞社ほか

来場者：非公表

- ②「子どもの本フェスティバル in おおさか」出展

「よんでみよう！出会ってみよう！アジアの絵本」をテーマに、アジアの絵本セットを中心に展示を行った。あわせて、子ども向け図書検索システム「本の海大冒険」「ほんナビきっず」広報のためブースを開設した。

会期：2007年10月27日（土）～28日（日）

会場：大阪ビジネスパークツイン 21

主催：活字文化推進会議、日本児童図書出版協会、出版文化産業振興財団

来場者：非公表

協力：松下電器産業(株)

- ③東京国際アニメフェア

当館の貴重なマンガ資料や「ほんナビきっず」広報のため、次のイベントにブースを開設した。

会期：2008年3月27日（木）～30日（日）

会場：東京ビッグサイト

主催：東京国際アニメフェア実行委員会

来場者：126,622人（4日間総計 ※うち海外来場者1,055人・プレス1,626人）

2. 特別研究員制度の活用

外部の研究者と新たなネットワークを築くとともに、当館の資料の活用を図るため、平成18年度に募集した館外の研究者に当館資料を用いた研究成果を当館の「紀要」等への投稿、展示等の企画・運営、講演会の開催等により、公表してもらう。

・竹内長武

期 間：前期と後期

テーマ：幼年マンガの再評価

還元(予定)：展示の企画・運営（2008年8～10月「幼年マンガと手塚治虫」展（仮））

3. 文学館レポートの発行

「大阪府立国際児童文学館REPORT」（和文・英文）の発行

4. 出版・編集事業の実施

児童文学・文化振興のため、次のとおり出版・編集事業を実施した。

・第23回ニッサン童話と絵本のグランプリ—童話大賞受賞作品

「ホタルの川」

・第23回ニッサン童話と絵本のグランプリ—絵本大賞受賞作品

「スイカぼうず」

BL出版（株）と提携 平成19年12月刊行

・紀要21号発行

VII 大阪府子ども読書活動推進事業

大阪府の総合的な読書活動の推進を図るため、行政関係者、公立図書館、学校図書館関係者、子どもの読書活動に取り組む府民グループ等を構成員とした、大阪府読書活動推進連絡協議会の事務局を引き続き務めるとともに、「大阪府子ども読書活動推進計画」における役割を担い、子ども読書活動の推進を図った。

1. 「大阪府子ども読書活動推進連絡協議会」事務局の運営

平成19年度の講座及び講演会等の運営・企画について話し合うため、次のとおり会議を開催した。

運営委員会の開催 2回

(平成19年4月20日、平成20年5月19日 3月4日)

2. モデル事業の実施

文部科学省の助成を受けて、下記の事業を実施した。

(1)地域の図書館を中心に、読書活動推進講座修了者、ボランティア、行政関係者等が開催するとともに今後につながるネットワークづくりを行うモデル事業を、島本町において行った。今年度は、乳幼児と保護者を対象とした読書活動推進をテーマとした。

- ① 実行委員会の開催 3回(19年9月27日、10月11日、11月29日)
- ② 講座の開催 2回(19年12月15日、20年1月28日、参加者：延べ100人)

(2)豊中市の中学校で、作家・小森香折さんを招いて、子どもを対象としたオーサービジットを実施した。

- ① 実行委員会の開催 1回(19年12月6日)
- ② オーサービジットの実施 1回(20年1月31日、参加者：延べ74人)

(3)自然観察学習館(万博記念公園内)と連携して、子どもが万博公園の森の豊かな自然にふれた体験をもとに、物語世界を表現するワークショップを実施した。

- ① 実行委員会の開催 1回(19年9月20日)
- ② ワークショップの実施 1回(19年11月23日、参加者：延べ28人)

(4)ボランティアを対象に、10代の子どもとともにおはなし・絵本を共有するための講座を開催した。

- ① 実行委員会の開催 1回(19年7月13日)
- ② 講座の開催 2回(19年9月25日、10月2日、参加者：延べ42人)

(5)報告書の作成

上記の事業報告と、小学校高学年・中学生を対象としたおはなし会の事例報告、下記の講演会の報告をまとめて、報告書を作成し、府内の図書館、関係機関・団体などに配布した。

3. 講演会・交流会等の開催

島本町で行ったモデル事業と、豊中市の中学校で行ったオーサービジット、万博記念公園で行ったワークショップ、ボランティアを対象とした講座についての活動報告を行うとともに、ボランティア・図書館関係者・学校関係者・行政関係者等が参加する講演会を開催した。また、ボランティア・図書館関係者・学校関係・行政関係者等の子どもの本や読書活動に関心を持つ人の情報交換の場をつくり、ネットワークを作るための交流会を開催した。

開催日 平成20年3月4日(火)

場 所 ホテルアウィーナ大阪

内 容

第1部「大阪府域での子ども読書活動の報告」

①「島本町での乳幼児と絵本の講座報告」(島本町立図書館司書 鈴木幸恵さん)

②「小森香折さんのオーサービジット報告」(豊中市立第八中学校教諭 糠野景子さん)

③「万博公園の森でのワークショップ報告」
(当財団主任専門員 土居安子)

④「ボランティアの講座報告」
(当財団主任専門員 土居安子)

第2部 講演会「YA 作品を書くということ」

講師：笹生陽子さん

第3部 交流会

参加者数 160人

4. 啓発リーフレットの作成・配布

赤ちゃん絵本啓発リーフレット(「親と子が楽しむはじめての絵本」)を45,000部作成し、保健センター等での健診の際に保護者に配布した。

5. 情報提供

①今後の読書活動推進のため、連携協力用のボランティアグループのリスト(収録数162グループ)により情報提供を行った。

(このリストは、平成17年度に実施した府域の小・中学校、盲・聾・養護学校、読書活動ボランティアグループ、公立図書館などを対象としたアンケート調査に基づき作成・配布したもの)

②当館ホームページで下記の内容を公開し、広く情報提供した。

・講演会「YA 作品を書くということ」(講師：笹生陽子さん)

・大阪府域での子どもの読書活動の報告

(「島本町での乳幼児と絵本の講座報告」「小森香折さんのオーサービジット報告」「万博公園の森でのワークショップ報告」「ボランティアの講座報告」)